

『ピースアクション2025』ご紹介

●朗読作品介绍

- ・東京大空襲体験「焼けあとのちかい」 (朗読 全員)

出版社・大月書店 / 文・半藤一利 / 絵・塚本やすし

日本の戦争に向き合い、戦争の過程を精緻に解明してきた半藤一利。その原点は中学2年で体験した東京大空襲だった。開戦から日に日に苦しくなる下町の生活。そして3月10日。猛火を生きのびた半藤少年は焼けあとでちかった。(大月書店)

- ・長崎被爆体験「5歳で受けたピカドンから80年」

体験記録：木戸季市 / 起稿構成・紅谷あきよ

(朗読 清水・長縄)

1940年、長崎市生まれ。69～2003年、岐阜聖徳学園大短期大学部に教員として在職し、現在は名誉教授。1991年、岐阜県原爆被爆者の会(岐朋会)を結成し、事務局長に就任。2017年から日本原水爆被害者団体協議会の事務局長も務め、今年退任。

- ・ものがたり「おかあさんの木」 (朗読 江川・杉田・元川)

出版社：ポプラ社 / 作・大川悦生

- ・絵本「生きる」 (朗読 全員)

出版社：福音館書店 / 詩・谷川俊太郎 / 絵・岡本よしたろう

台本 / 演出 / スライド 紅谷 あきよ

朗読指導 / 音響 紅谷 与一

コープクラブ 朗読の会・たんぽぽ

『ピースアクション2025』戦後80年

●日時：2025年8月24日(日) 開場 13:30

開演 14:00 終演 15:00

●会場：北部コミュニティセンター・2階大集会室

○主催：コープクラブ「朗読の会・たんぽぽ」

○後援：岐阜市・岐阜市教育委員会

○協力：NPO法人 スマイル Basket

全岐阜県生活協同組合連合会

生活協同組合 コープぎふ

東京大空襲写真(1945年3月10日発生 NHK首都圏ナビ)



なぜ約10万の遺骨の名前がわからず 遺族に返還されないのか？

<httpswww.nhk.or.jpshutokenarticles10102092>

「ごあいさつ」 朗読の会・たんぽぽ

今年は戦後 80 年

2024 年 12 月、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協・1956 年結成）はノーベル平和賞を授賞されました！

先の戦争を知る人はどんどん高齢化し、被爆体験を語れる人も少なくなりました。日本被団協と、岐阜県原爆被害者の会（岐朋会）の前事務局長は岐阜市にお住まいです。

朗読の会・たんぽぽは、戦争体験者の思いを少しでも継承できるように、“かたりべ”として本日を迎えました。

みなさまと共に、平和への希求を高められますように・・・

絵本「生きる」 出版社：福音館書店



日常にこそ、生きていくことのすべてがある。

照り付ける陽ざしがまぶしい夏。昼間外に出るのもためられるような暑い日でも、この夏かぎりとはばかりに、セミは大音量で鳴いています。こんな夏の日にはぜひ子どもたちと一緒に味わってほしいのが谷川俊太郎さんによる一篇の詩から生まれた絵本『生きる』です。 <https://www.fukuinkan.co.jp/blog/detail?id=430>

「核も戦争もない世界を共に」



ノーベル平和賞の授賞式を前に記念撮影する日本被団協の田中熙巳代表委員（前列中央）とメンバーら

ニオスロで 2024 年 12 月 10 日、猪飼健史撮影
毎日新聞

<https://mainichi.jp/articles/20241210/k00/00m/040/289000c>

「おかあさんの木」 出版社：ポプラ社

七人のむすこがつぎつぎと兵隊にとられ、そのたびに桐の木を植えて、むすこたちの無事をいのるおかあさん。

児童文学作家の大川悦生が 1969 年に発表した戦争を題材にした文学作品。小学校の国語の教科書にも 1977 年から 2000 年にかけて収録され、映画にもなっている。